



昭和八年三月至三月十日衛生業務同報

濃尾衛生旅團司令部

前哨隊ヲ退却スル由ニ報告シテ  
 妙和八年三月五日衛生業務局報 於平泉 根據地由旅團司令部  
 一部隊行動ノ概要

前哨ニ引續キ諸隊ハ長城附近ニ於テ對陣中旅團任  
 務ハ亦変更スル 桃林口(号舎)ニ以テ洪山口(号舎)ニ至ル  
 長城ノ線ヲ守備スルト共ニ擔任警備地域内(北ハ七家子  
 金家店ヲ連テル線以南 南ハ長城ノ線 西ハ金家店一光頭山一  
 七溝一架又山一洪山口ヲ連テル線(号舎)ヲ以テ川原旅團  
 ニ界シ東ハ九頭山一四道嶺一井龍山一東盤山一桃林口連  
 テル線(号舎)ヲ以テ鈴木旅團(号舎)ノ敗殘兵(匪ヲ  
 掃蕩シ)治安維持ニ任スルコトナリ 新ニ歩兵隊(十五聯隊  
 (大隊)ヲ基幹トシテ)迎支隊ヲ配屬セラレタルヲ以テ且至  
 日單隊區介ヲ変更シテ其任務ヲ定メラレタル即チ次ノ如シ

二衛生機關業務ノ概要

衛生班ハ二十五日部隊ノ移動ニ伴ヒ警戒ノ都合上青峰口開門附近ニ移動閉鎖設シ前任務ヲ續行セリ

本日間収容シタル患者數ハ戰傷三名平病五名ニシテ内一名急性穿孔性壞疽性腸線炎起疾アリ二日手術ヲ施シタリ而シテ本日間後送シタルモノハ六名ニシテ治療退院セシタルモノモ亦六名ニシテ本現在患者ハ三名ナリ

三患者輸送ノ状況

本日間衛生班ヨリ平泉開東軍臨時第一野戰病院へ後送シタル患者數ハ六名ニシテ内二名ハ二十五日夜間自動車班ノ糧秣輸送ノ歸路ヲ利用シ内二名ハ二十五日夜間司令部ノ平泉ニ歸還スルニ際シ司令部看護長ニ依頼シ第一日ハ大行李ヲ次々送リ二日ハ自動車班ノ自動車ヲ輸送セリ又二名ハ二十六日大行李

空車輛ヲ利用シ尚一名ハ三才歩五ノ第三大隊ニ屬セシ野砲中隊ノ歸還ニ際シ關東軍自動車隊ノ自動車便乘セシメテ後送シ遺憾ナキヲ得タリ

日 衛生材料補給ノ狀況

戰傷及平病用一般ノ材料ハ未ダ不足ヲ感スル程度ナキモ特種藥物消耗品中若干補足ヲ要スルモノアリ。補給力多申請セリ其他衛生班ヨリ他部隊ニ補給シ或ハ他部隊ヨリ受領シタルモノハ衛生班ノ日報ニ示スヲ以テ茲ニハ省略ス。

格闘司令部ヨリ乘馬村伐隊ハ撤曹錠トセル散錠硝酸錠・健胃錠各三〇個ヲ補給シタリ

五一般衛生狀況

人患者ノ狀況

本回閣者部隊ノ休業以上ノ新患總數ハ三才白カニシテ先

自シ先シハ三才ヲ減セリ。其ノ減少シタルモノ原自ハ戰傷ニシテ先自ノ八十五名ニ對シ本回ハ僅カニ五名ニ過ラズ戰死者モ先回ノ二十名ニ比シ僅カニ二名ナリ。

而シ平病者ノ數ハ先回ノ三九名ニ比シ二十九名ニシテ衛生狀況ハ概シテ良好ナリ。而シ平病中特ニ部スベキモノハ司令部ノ馬下及歩三ノ兵中花柳病ニ罹リ入院シタルモノ各一名アルトト歩三歩及七歩之ハ各一名ノ胸膜炎患者ヲ出シタルトニシテ他特ニ部スベキモノナシ。

先回報告シタル騎兵隊ノ凍傷患者ハ全部治癒退院シ障碍ヲ殆クスナカリシハ幸ヒナリキ

部隊別患者表

部隊別	新患	死亡	病退	治癒	後遺	摘	要
旅團司令部	一		一				

歩	歩	歩	歩	騎	野砲	通信隊	自動車隊	衛生班	計
歩二五ノ五	歩二六ノ五	歩二七ノ五	歩二七ノ五	騎一ノ二	野砲一ノ五	通信隊	自動車隊	衛生班	計
一三	二	二	七	二	一	一	一	一	三四
			七	二					二
			七					一	二〇
			一				三		四
					一				八
			五						
			二						
			二						
			二						
			二						

2 被服ノ状況  
 土發以來約一ヶ月間行軍戦闘警戒勤務等劇シカリシ  
 被服ノ洗濯ヲ怠ラズ大ニ敷クハ其ニ儘ヲキレテ

毛本領入り多リハ對降状態トナリ或ハ準備勤務トナリ稍  
 暇ヲ得ルニ至リテ洗濯氣遣ハテ穿テ使ハスルヲ得ナリ、  
 被服ハ奉天出發前部々交換ヲ行ヒ概テ遺憾ナカリシ  
 又最近再々相當交換セルモノヲ認ムルニ至レリ、防寒被服ハ  
 未タ引揚ケヌ夜間勤務時又ハ就寝時自由ニ使用セシメ  
 ツツアリ

糧食ノ状況  
 特ニ記スヘキモノナク補給ハ概テ円滑ニ實施セラレ給養上適  
 愜ヲ見タルコトナシ  
 4 宿營ノ状況  
 二五〇部隊ノ移動實施後ハ第一線部隊ニ於テ概テ餘  
 裕ヲ生シ兵員何レモ温突ノ室ニテ休養スルコトヲ得、土間ニ寝テ  
 ルハカチキルモノハナキニ至レリ、雨ヲ對陣稍久シキニ至ルニ傾

向アル及テテ言日方隊長會談之際シ跡營地ニ於テ衛生施設ニ注意ヲ與ヘタル處方隊長長ク之ヲ實施シ厠圍ノ設置犬掃除ノ實施塵芥汚水ノ處置ノ入荷場ノ設備等概テ應急施設ヲ實施セルルニ至レリ。然レトモ長城附近ノ家屋ノ農家尤ク以テ茅屋ニシテ且ツ狹隘ノ潔クなく多クス任氏ノ避難セル監屋ヲ占領シ居ルモノハ對陣久シキニ互ルトモ任氏ノ迷惑モ一方オナルモノアルヲ以テ單ニ衛生上ノ見地計リテ方上ニ至急兵營ノ新築ヲ要スルモノト認ム。

第一線部隊以外ニシテ寬城平泉等ニ宿營セル部隊ハ家屋概テ良好ニシテ宿營上遺憾ナシ之等ノ宿營地ニ於テ厠圍ノ新設溝渠ノ浚渫大掃除等ヲ實施セシムツアリ。入荷ハ町ノ荷場ヲ買ヒ上テ各隊ニ時間ヲ配當シテ入浴セシムツアリ。

天候ノ概況

天候ト關係シテ之ヲ察スルニハ右ノ如シ

天候ノ概況

天候ハ概テ良好ナルモ時々曇ルルコトアリ又小雨ヲ催シタルコトアリ風多ク砂塵埃タルコトアリ然レトモ天候概ハ一般ニ暑シク昇リ朝ハ概テ涼度因テ之ニ僅カク薄氷ヲ見ル位ニナル日中ハ暑シク暑クナリ十五度内外昇リ天候晴朗ニシテ風亦日ニ於テハ全ク小春日和ヲ呈シ頗ル氣持ヨクシヤピア色ノ山ニ著シク青味ヲ帯ナルニ至リ農夫ハ特産ノ蠶繭桑ノ種蒔ヲ始ムルニ至リ

梅園司令部ニテ測定セル氣温表次ノ如シ

月日	天候	測定時間	月日	天候	測定時間
二十一日	快晴	午前六時 午後十時	二十七日	晴	午前六時 午後十時
	四二〇	四一〇		四四〇	四二〇
	四一〇	四一〇		四二〇	四三〇

二十一日	快晴	〇	四二〇	四三〇	四三〇	四二〇	四一〇	四一〇
二十二日	〇	〇	四三〇	四四〇	四四〇	四三〇	四二〇	四一〇
二十三日	〇	〇	四四〇	四五〇	四五〇	四四〇	四三〇	四二〇
二十四日	〇	〇	四五〇	四六〇	四六〇	四五〇	四四〇	四三〇
二十五日	快晴	〇	四六〇	四七〇	四七〇	四六〇	四五〇	四四〇
二十六日	快晴	〇	四七〇	四八〇	四八〇	四七〇	四六〇	四五〇
二十七日	快晴	〇	四八〇	四九〇	四九〇	四八〇	四七〇	四六〇
二十八日	快晴	〇	四九〇	五〇〇	五〇〇	四九〇	四八〇	四七〇
二十九日	快晴	〇	五〇〇	五一〇	五一〇	五〇〇	四九〇	四八〇
三十日	快晴	〇	五一〇	五二〇	五二〇	五一〇	五〇〇	四九〇

備考測定場所ハ平白日逆桿羅白ニ書ハ寛城ニ平白以降  
ハ平泉トス

六所渡及衛生施設

六旅團ノ多数部隊ニ於テ人出征以來諸種ノ都合上賜テ  
六 A及B型パラチラス豫所接種ヲ實施ス  
日ニ至レルヲ以テ戦局ノ少康ヲ得ル此ノ際ニ於テ實施ス  
ニ度考ヘテ以テ接種液ヲ送附才ニ關シ三月十九日関東軍  
軍醫部長ニ次ノ如キ電報ヲ發シタリ

一混一日務階第...  
二請示...  
三ニ〇〇人...  
此ノ際實施シ度キニ休至急空輸セシ度ニ未精豫隊  
ヲ内服セシメ度キニ休ニ〇〇人介送休方取計ラヒ度  
右對シ関東軍軍醫階部長ヨリ三月五日、  
關階ニニ〇〇混一日務階ニニ〇〇邊接種液並ニ赤痢豫防  
錠ハ中火ヨリ未着ニ休キ遺憾ナカラ發送シ得ス到着  
發送休ス  
依ツテ尚木同曰左記ノ如ク依頼シ置キタリ  
電報拜見ヒリ中火ニ至急送休スル如ク請求方御座  
慮相成度重ネテ依頼ス  
二前項宿營ノ項ニ記シル如ク旅團ハ現在地ニ於テ相當

長期に亘り駐留ノ模倣ニシテ時情モ暖氣日ニ増シ種類  
 發生ヲ始メ諸病猖獗ノ期ニ向ヘルヲ以テ露營地ニ於テ  
 衛生施設ニ就テ萬道通漏ナキヲ期スル要アルヲ認メタルヲ  
 以テ二十五日各部隊長ノ會合ノ席上ニ於テ別紙ノ如き露  
 營地ニ於テ衛生施設ニ就テナル注意書ヲ印刷配布シ  
 且ツ説明ヲ加ヘテ實施ヲ希望シタリ、然ルニ其後各隊長ノ實  
 施シタルト前項誌載セルカ如シ、  
 三月二十五日歩五ノ第五中隊ノ兵一流行性腦脊髄膜炎疑ヒ  
 乙旨同隊附隨官ノ報告アリタルヲ以テ翌二十六日各部隊長  
 衆移動ト共ニ支那兵車ニ載セテ後送シ寛城ヨリ八日自動車ニ  
 載セテ二十日平泉關東軍臨時第一野戰病院ニ入院セテ輸  
 送間ニ於テ宿舎ノ防疫並ニ喜峰口關門外ニ於テ宿舎  
 ノ消毒ニ就テ人關係部隊ニ通報シ遺漏ナキヲ期シタリシカ  
 野戰病院入院後流行性腦脊髄膜炎ニアリト明カト  
 ナリタリ、

大補充員ニ對スル種痘ノ件ニ關シ三月二十七日次ノ如ク各部隊  
 ニ會報シタリ、

最近内地ヨリ到着シタル補充員ハ内地出發前ニ於テ種痘  
 ヲ實施シタルモノトハ信ズモ各隊長ハ實施ノ濟否ヲ調査シ  
 至急報告ヲセラレ度、

尚ホ滿洲種ニル種痘ハ成ルヘク至急實施セシ度、痘苗  
 ノ不足部隊ハ其ノ所要數ヲ至急申出テラレ度、

五五由來駐留部隊ニ對シ龍柳滿隊防上二十七日次ノ如ク  
 通告セラレタリ、

平泉ニハ支那遊廓ニ田軒娼妓ニヨリ内外凡モ不潔ニ  
 テ有害若多シトノコトナルヲ以テ日遊廓ヲ五入禁止來



屋トス

6. 毒蟲「蝎」ノロク

出始メタルヲ以テ蝎ノ軍兵ヲ採リ

右隊ニ配布シ注意シ促シタリ

7. 其他必要ト認ムル事項

人古谷三隊ニ配属スキ衛生班ノ一部ニ關シ衛生班長ニ對シ

テ由次ノ如ク電報ヲ以テ指示セリ

1. 白旗階ニ由三混務作庫第一二一號第由項ノ衛

生班ノ部トハ單階一看護長ニ看護兵六トシ衛生材

料ハ隊階極一號三號各一其他所要材料ヲ携行セシム

ルニト承知セシ度

2. 新ニ繰下ニワタル歩兵第十七聯隊第一大隊附陸軍一等

軍階安井二郎ヲ九日連絡ニ乘九、依ツテ作戦方針

既屬スヘキ衛生班ノ性能、患者後送ニ關ルル希望連絡

テ

警ニ守之關シ為望ニ速ニ置キタリ、

尚ホ格闘ヨリ方行テ隊ニ配属スヘキ各中隊ニ軍階ノ

配属キキヲ以テ資質ハ夫隊各隊ノ軍階九ノ考ヘ又テ

善處セシ度件ヲ希望シタリ、

3. 中隊駐留部隊中軍階ノ配属キキヲ以テ當

分軍階部ニ於テ毎曰午前九時ヨリ診察ヲ實施スルフト

ニ定メ一般ニ達セリ、

4. 二月二十日急性氣管炎多シテ瀋陽衛隊病院奉天分院ハ

入院シ九野砲兵第七聯隊第一大隊第五中隊卷木看

護兵ハ三月十日迄退院シ三月二十日原隊ニ復歸セリ

八. 意見

人看護兵ニモ必勝ノ信念ヲ附與セシムル為將來教育上

銃劍術ヲ鍊磨セシムル要アリ、

理由

滿洲多災發生以來ノ経験ニ鑑ミ看護長兵ニモ武装  
 セルニ要アルヲ認メ既ニ小銃短銃ヲ支給セシ本年  
 度ヨリハ更ニ進ンテ射撃隊ヲ實施セシル如ク達セシル  
 ハ誠ニ結構ナルトモ尙ホ進ンテ銃劍術ヲ教習シテ  
 必勝ノ信念ヲ養成シ一騎當千ノ氣概ヲ養成スルコト  
 ハ匪賊相手ノ戦地勤務ニ當ル者ニ對シ極メテ必要ナル  
 コトヲ痛切ニ感シタリ

又今回配付セシタル液体破傷風血清ハ一〇cc以上ノインプ  
 入尤モ之ニ如ク戦傷者アル場合残量ヲ放棄スルカ如キ  
 不経済ヲ防止スル爲メニ此ノハインプレトヲ補充スル如  
 クセラル度